

ピースウィンズ・ショップから

新豆が続々日本に到着しています！



ご注文は、<http://pwshop.ocnk.net/>

FAX:03-3465-2112 またはTEL:03-5738-8021まで

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。

佐賀市に事務所を設置しました

PWJは昨年12月1日、国内3カ所目の拠点として、佐賀市に事務所を設置しました。佐賀県や地域のNPO、企業などと連携し、国際協力や災害救援の新たな拠点とすることに加え、国内事業の一つとして伝統工芸の振興を支援する計画です。



PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号: 00160-3-179641

加入者名: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等（東日本大震災の場合はその旨）を明記してください。

【銀行口座】

● PWJの活動全般へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 青山支店

口座番号: 普通 1671932

口座名義: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

● PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 桜新町支店

口座番号: 普通 6723184

口座名義: 特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン

※領収書が必要な場合はご連絡ください。ご連絡をいたかない場合、銀行振込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。

限定のチョコレート販売終了間近です！



昨年11月以来、東ティモールから待ちに待ったコーヒーの新豆を載せたコンテナが続々と到着しています！これを受け、ピースコーヒーレギュラーフィルター200g、焙煎豆500g、ドリップバッグなどの商品は新豆への切り替えを順次開始しています。

コーヒーは農作物なのでワインのブドウのように毎年味が変わるので、今年の味について、専門家からは「圧倒的な甘さがあり、ボディ（コク）もしっかりといて美味しい」というコメントをいただいている。ぜひ一度、ご自分で味の違いを確かめてみてください。

ご注文は、<http://pwshop.ocnk.net/>

FAX:03-3465-2112 またはTEL:03-5738-8021まで

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。

お知らせ

- 11/15 Nikkei Asian Reviewで東ティモールの現地運営カフェが紹介
- 12/3～ NHK広島放送局「お好みワイド」でふるさと納税の取り組み紹介
- 12/10～ 中国新聞、朝日新聞、読売新聞などで災害派遣用ヘリの配備について紹介
- 2/3 佐賀新聞にPWJの佐賀県進出協定締結について掲載
- 雑誌「女性セブン」12月24日号で災害救助犬・夢之丞が紹介

メディア
掲載報告

支援者のみなさまへ

いつもPWJの活動に温かいご支援を賜り、ありがとうございます。PWJは2016年2月1日、設立20周年を迎えました。これまでご支援下さった多くの方々に、深く感謝申し上げます。

PWJはこの20年間、計28カ国・地域で人道援助に取り組む一方、NGOの活動基盤を強化するためのしくみづくりや援助システムの改善にも力を注ぎました。ここ数年は新たに、過疎・高齢化や産業の衰退が著しい日本の地域の再生と振興にも挑戦しています。

今後も「チャレンジ（挑戦）」と「イノベーション（変革）」を合言葉に活動を展開してまいりますので、変わらぬご理解、ご協力をよろしくお願ひいたします。



peace winds
JAPAN

支援のプロを、
世界の現場へ

迅速な 緊急支援展開へ ヘリ配備

—広島、救助犬・レスキュー隊—



台湾の連携団体との合同訓練の様子



台湾南部地震発生を受け、関西空港に向かうヘリ

ピースウィンズ・ジャパン（PWJ）の災害救助犬とレスキュー隊に、待望の輸送手段が加わった。災害現場への緊急展開に欠かせないヘリコプター1機が、昨年12月、本拠地の広島県神石高原町に配備されたのだ。操縦士、整備士、救急救命士も常駐し、災害時にはいつでも出動できるように備えている。

災害時にヘリが役立つことをPWJが実感したのは、5年前の東日本大震災。発生の翌朝からヘリで調査に向かい、人員や物資を三陸沿岸の被災地に送り込めたことが、その後のスピーディーな支援の展開につながった。

捜索・救助活動に乗り出したことで、ヘリの有用性はますます高まった。土砂崩れや積雪などで陸路が寸断され、車では到達できない場所にも、ヘリがあれば救助犬やレスキュー隊を迅速に投入できる。時速200キロ以上のスピードは、想定される南海トラフ地震などの広域災害でも力を発揮するだろう。

配備後、さっそく12月中旬には、台湾から来訪したパートナー団体と合同でロープを使ったヘリからの降下訓練に取り組んだ。今年2月の台湾南部地震では、結果的に現場への出動は取りやめたが、関西空港までのチームの移動にヘリが活躍した。

鮮やかな黄色とオレンジを基調とした機体は、最近まで東北の被災地で、大病院へのアクセスが難しい救急患者の搬送などに使われていた。今後も神石高原町内や周辺の診療所などとネットワークを築き、医療搬送にも活用することを予定している。

この春には、格納庫などを備えたヘリポートを町内に整備する計画だ。より機動的でダイナミックな支援活動に向け、ヘリがいよいよ「離陸」する。

支援のプロを、世界の現場へ

2015年度(2015.2.1~2016.1.31)のPWJ活動一覧

イラク

2011年以降、シリアから大量の難民がイラクに流入しているのに加え、イラク国内でも紛争の激化によって300万人を超える国内避難民が発生し、支援の必要性はさらに高まっています。15年度もイラク北部に拠点を置き、越冬用の灯油の配布、難民・国内避難民が生活するキャンプ内外の上下水道の整備、難民キャンプの子供たちを対象とした学校健診、学校の改修等を行いました。



ガザ



紛争と混乱が続くパレスチナ・ガザ地区で、2015年12月から、青年層の雇用支援（キャッシュ・フォー・ワーク事業）を現地の提携団体と実施しています。約500人分の短期雇用を創出し、紛争で生活状況が悪化した世帯が一時的な現金収入を得られるよう、サポートしています。特に失業率が高く、就労機会の少ない青年層に支援の対象を絞り、現金収入による生活支援に加え、青年たちのキャリア支援も目指します。

南スーダン

前年度に続き、隣国ケニアからの遠隔指示による支援となりましたが、2015年2月以降は定期的に南スーダンの首都ジュバを訪問し、活動を進めました。国内避難民キャンプや難民を受け入れる地域において、ごみ回収や清掃、トイレなどの衛生設備の建設、衛生普及員の育成等を、現地提携団体と協働で行いました。PWJの活動は、コレラの発生率低減、住民による自宅用トイレの建設にも繋がっています。

PWJが学校に建設したトイレ

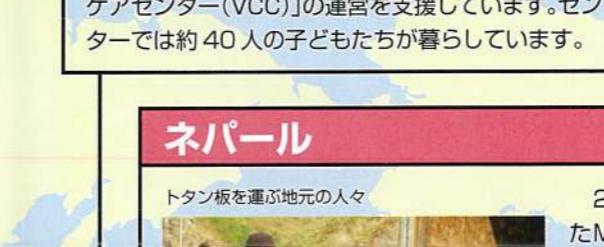
ケニア

2012年以降、ソマリア国境寄りのダーバー難民キャンプで支援を継続しています。15年度は1,761戸の仮設住宅を建設し、難民へ提供しました。これにより、PWJが同キャンプで建設した仮設住宅は7,000戸を超みました。15年6月には、ケニア北西部にあるカクマ難民キャンプにもPWJの事務所を設立し、支援を開始。南スーダンからの難民に仮設住宅を400戸提供しました。



アフガニスタン

2013年3月からアフガニスタンの市民社会を代表する Civil Society Organization(CSO)ネットワーク組織の能力を強化するための事業を、日本の3つのNGOと連携して実施しています。2015年度も助成金などを獲得してプロジェクトを運営するための実務研修をしました。



モンゴル

貧困や家庭の事情のために保護者のもとで暮らすことができない子どもたちの保護施設「ベルビスト・ケアセンター(VCC)」の運営を支援しています。センターでは約40人の子どもたちが暮らしています。



ネパール

トタン板を運ぶ地元の人々



2015年4月にネパール中部で発生したM7.8の地震を受け、6人のスタッフと災害救助犬2頭が現地入りし、行方不明者の捜索や緊急の食料配布（700世帯）にあたりました。その後は被災者の家屋再建を支援するため、シンドウバルチャード郡の2,705世帯に仮設住居建設のための資材を配布し、同郡の8地域では耐震技術研修も実施しました。

台湾

2015年8月、台風13号上陸によって被害がでた台湾西北部に災害救助犬とレスキュー隊員を派遣し、土石流で集落が流された場所などで行方不明者の捜索を行いました。



ミャンマー

長年の民族紛争のために故郷を離れた難民・国内避難民の帰還に備え、2013年からこれまでに、カレン州の33村47カ所で井戸などの給水施設を建設・修繕しました。カレン州は洪水が頻発する地域であるため、避難訓練などの防災事業も30村で実施しました。また、15年8月にミャンマー全土を襲った洪水災害に対応し、カレン州、イラワジ地域、マグウェ地域で緊急物資の配布や被災農地の再整備などの支援を行いました。



東ティモール

アメリカの有機認証を取得し、アメリカでも有機コーヒーとしてピースコーヒーを販売できるようになりました。東ティモール国内では、首都ディリにコーヒーの品質を評価するための施設をつくり、品質鑑定をする人材の育成に着手しました。東ティモールの人が自ら品質を評価できるようになることで、コーヒー生産者へより細やかなアドバイスが可能になり、さらに品質が向上すると考えています。



日本

東日本大震災被災者支援

宮城県南三陸町と気仙沼市において、コミュニティ支援の活動拠点となる施設が完成しました。地域の高齢者らが中心となって活動をはじめた南三陸町のNPOと、地域の青年を中心に復興に向けて活動する気仙沼市のNPOをパートナーとし、それぞれ施設を活用した地域活性化に取り組みました。



南三陸町に完成した施設

広島土砂災害被災者支援

2014年8月に発生した広島土砂災害の被災者支援として、広島市安佐南区において、地元住民の結びつきを強化し、災害リスクの低減につなげるためのイベントを15年8月まで定期的に開きました。

関東大雨災害被災者支援

2015年9月、関東地方で大雨による大規模な浸水被害が発生したことを受け、PWJは茨城県常総市に災害救助犬とレスキュー隊員を派遣しました。現地ではゴムボートと水陸両用車で孤立した老人福祉施設に物資などを届けたほか、避難所を回って被災者のニーズを確認し、不足している生活物資を届けました。

ピースワンコ・ジャパン事業

前年度に広島市と神奈川県の湘南地域に開設した保護犬譲渡センターの運営を軌道にのせ、これまでの総保護数を563頭、譲渡・返還数を289頭に伸ばしました（2016年1月末時点）。また、16年6月に期限を迎える「広島県の犬の殺処分ゼロ1000日計画」の実現に向け、400頭を保護することができる新犬舎の建設に着手しました。災害救助犬育成事業では、夢之丞とハルクに加え、新たに3頭（保護犬を含む）の訓練を開始しました。



地域再生事業

広島県神石高原町でPWJが創設にかかわった体験型の観光パーク「神石高原ティアガルテン」が、約2年間の準備期間を経て、2015年7月にオープンしました。多くの観光客を呼び込み、過疎地の再生に繋がるよう、PWJは引き続き、パークの運営を支援します。また、15年12月には、伝統工芸の振興などを目的に佐賀県に事務所を開設しました。

